

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400340		
法人名	医療法人 交雄会		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	遠軽町生田原350番地		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりが入居以前の生活を出るだけ継続できるように、無理のない毎日が送れるようにと考えています。一階には診療所があり、健康面では、安心して過ごすことができます。眼下の生田原川河畔パークゴルフ場では、多くの人々のプレーする姿が見られ、自分も若い頃にはパークゴルフをしたものだ、懐かしむ入居者さんもあり、自然に囲まれて穏やかな、静かな毎日を過ごせるようにと支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0175400340-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年10月8日

「グループホームしらかば」は、生田原地区の中心部に位置し、同法人グループにより運営している診療所の2階に開設されています。法人では生田原地区に老人保健施設や通所施設を有しており、連携を図りながら運営されています。開設当時に利用者がつぶやいた言葉「楽しくて 安心して 出来ない事も 出来る事も 何でも皆と一緒にし 助け合いながら暮らす 優しい時間を大切にします」を理念とし、職員は込められた思いを実現すべく介護の提供に努めています。更に、毎年自己評価の際に立てた目標達成計画を1年間の事業所の目標として取り組むと共に職員一人ひとりが個別年間目標を設定してスキルアップ、モチベーションアップに努めています。職員からの提案や要望等、色々な事が言い易く風通しの良い職場環境になっています。現在、コロナ禍で、どうしても閉じこもりになりがちな状況の中、職員は利用者楽しく、活動的に過ごしてもらいたいと、建物内で夏祭りを計画し廊下で盆踊りを踊ったり、ベランダで野菜を育てる等、工夫を凝らしています。職員は利用者が出来る事は行なって頂く様にと、毎日の暮らしの様々な場面で利用者と職員が共に行う事で、過剰介護にならぬように注意を払いながら、利用者が意欲的に暮らせる様に支援しています。家族への報告も、毎月写真をたくさん掲載した事業所便りを発行する他にライン等を使用し様子をお伝えし、家族の心配や不安に配慮して、信頼関係を築いています。事業所の建物は町が所有しており常に行政とも連携しながら、地域で唯一のグループホームとして町の高齢者福祉に寄与し利用者を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は居間リビングに掲示してあることで日々意識を持っている	開設時に利用者がつぶやいた言葉を理念として掲げ、目に付く所に掲示し、管理者、職員は込められた思いを共有し理念に沿った介護の提供に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、緊急・必要以外の外出はほとんどしていない。	町内会に加入しています。コロナ禍で中々地域住民との交流が出来ない状況ですが、窓から散歩している方に手を降って挨拶する等で交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、地域の方々との交流のできる機会は作れていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日々の生活ぶりを施設便りなどを見ながらお伝えし、様々なお話から、入居者のQOLの向上に役立つと思えることは取り入れるようにしている。	コロナ禍の為、多人数での開催が難しい状況を鑑み、1階の診療所待合室を会場に行政の参加を得、時間や人数を絞って開催し、報告や意見交換を行っています。議事録は全家族に送付し共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町職員の出席があり、介護保険の認定調査は町保健師にお願いするなど、町に施設を知っていただくように考えている。	事業所の建物は町所有となっており、常に連携しています。運営推進会議には行政職員の他に、地域包括支援センター職員や社会福祉協議会の職員が参加し、運営に反映されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で身体拘束についての勉強をする場を持って職員みんなで毎月学んでいる。しかし昨年来のコロナ感染拡大により、玄関は施錠している。	管理者が中心となり、職員全員が参加して身体拘束廃止委員会が開催されています。毎月の会議時には常に身体拘束に付いての確認を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会は身体拘束に関する勉強会を含めて会議の中で話し合いされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来るだけ毎年会議の中で勉強会を設けるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や料金などの改定時には、よく説明を行ったうえで書面による承諾を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の会話やの中で要望などを聞き取るようにしている。ご家族とは、電話やお会いした時などにお話するようにしている。	コロナ禍で面会が制限される中、窓越しでの面会やラインでの動画配信等柔軟に対応し利用者、家族の不安に配慮しています。又、折に触れ利用者、家族の意向を把握する様努め何でも言って貰える関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談時などに機会を設けている。	管理者は毎月の職員会議時や日常業務時、個人面接時を職員の意見や要望を聞き取る機会としています。更に、職員は毎年個人目標を設定し、モチベーションアップに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などで職員の思いや希望を聞き取りし、働き易い職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での外部研修は限られているところであるが、コロナ禍の今だからこそ思い切って始められる自己研鑽の道筋を作れるよう関わっている。例えば、資格取得への助言・協力等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部に出での交流はコロナ禍でできにくいですが、電話などでは、情報を共有したりしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの家族・ケアマネの情報に基づきしながら入居後の関わりから得る情報を共有し、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用以前から家族とは連絡を取りながら、入居する利用者への思いや不安に耳を傾けるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の訴え・ご希望や家族の思い、事前情報などから、まず必要な支援を見極めて支援するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器ふきなど、出来る事をできる方が行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密に取り合い、本人を支えるようにしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会が出来ないので、電話を取り次いでりして支援している。	以前は友人の訪問がありましたが、現在は電話で交流しています。読書をしたり新聞を読んだり利用者のこれまでの関わりや習慣を大切にした支援に取り組んでいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮しながら座る場所を考え、スタッフも間に入って、心地の良い空間を作るように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院退去などの時には、退去後も家族と連絡を取りながら、本人家族共に支援できるようにと務めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが出来るように、本人や家族の思いを大切に支援している。	職員は午前中のコーヒータイム、3時のおやつ、夕方のお茶の時間を始め、日常的に利用者と触れ合う中で利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努め職員間で共有し実現に取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族に記入していただくセンター方式の情報シートを活用し、生活歴の把握に役立っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り・ケース記録などでの情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント表を基にして、本人の思いを考えながら、家族の要望・担当者の思いを取り入れた介護計画をまずは担当者が作成し、その計画を基にして介護支援専門員が仕上げている。	利用者、家族の意向を取り入れ、会議時に担当者が介護計画に沿った状況を説明し、職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成しています。介護記録は介護計画の実施状況が分かる様に工夫され見直し等に活用されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り・ケース記録などでの情報共有をしており、必要に応じたミニカンファレンスなどで介護計画作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知状況の変化など、常に変化していくニーズには柔軟な個別対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	このコロナ感染症感染拡大の真ただ中、少しでも施設内での生活を楽しめるようにと支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居当初はかかりつけ医を継続しているが徐々に、身近にいて見守って頂けることが可能な一階の診療所に、かかりつけ医を変更していく場合が多い。	診療所の2階に事業所があり、利用者全員が診療所をかかりつけ医とし、遠方への受診は家族と一緒に職員が対応しています。週1回、看護師職員により利用者の健康管理が行われ24時間オンコールにより安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録には必ず目を通し、看護師には気になる事などを質問し助言を受けることで、入居者の健康健康維持・管理に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の病状説明など家族と共に病院からの話を聞くようにしており、家族や本人の安心に向けて、出来るだけ早期の退院に向けての情報交換などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初から重度化に向けての希望を伺っており、入居後も心身の変化に応じて話し合い、本人や家族の希望に沿って支援している。	利用者、家族には入居時に重度化した場合の対応指針により説明し、希望や思いを聞き利用者や家族の心に寄り添い、主治医・看護師・職員等で協働し看取り介護に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これまでは毎年救急訓練を受けていたが、昨年はコロナ感染症拡大の為に受けていない。本年は感染状況を見ながら考えていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害に避難対応できるように火災・感染・自然災害などのマニュアルやBCPを作成している。毎年地域住民の協力を得ながら行っている避難訓練は、昨年はコロナ感染症拡大を受けて行っておらず、今年度もまだ行っていない。	年2回の火災避難訓練と地震訓練を実施しています。非常食や飲料水など備品の点検、補充を行っています。事業継続計画を作成しあらゆる災害に対してサービスを継続的に提供できる体制を構築しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少人数なので日常的に密接にかかわるために、どうしても親しくなり過ぎる傾向があり、言葉遣いには気を付けなければと思っている。毎年接遇マナーについて学んでいる。	言葉遣いに気を付け親しみを込めていても丁寧で尊厳を傷つけない会話を心掛けています。信頼関係を築いたうえで介護がスムーズに行えるような呼び方を家族の了承を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思を表出したり自己決定できるようにと、人格尊重しながらあまり他人行儀にならない様に、雰囲気づくりや関わり方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間・食事時間・入浴時間など、できるだけ一人ひとりのペースやご希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の希望を表せる方は少ないので、スタッフが出来るだけ想いを汲むように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理している匂いや音で食事を楽しみに待っているが、コロナ禍の中、以前のように職員と入居者は同じ食卓は囲んでいない。	職員が一人ひとり1週間ごとの献立を作成し食事を提供しています。利用者の誕生日には希望のメニューに応え、ケーキなどで祝い食事を楽しんでいます。後片付けや食器拭きなど職員と一緒にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に応じて食事形態・食事内容・水分摂取方法などを工夫して、エンシュアやミキサー食・トロミ付けなどを提供している。食事や水分摂取量などは、チェック表にて記録・確認できるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・コーヒー後、おやつ後には歯磨きや口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて排泄パターンを知り、それをトイレ誘導などに生かしている。	端坐位から移乗によりトイレでの自立排泄に向け利用者一人ひとりにあった声掛け誘導でトイレでの排泄に取り組んでいます。看護師によるオムツの当て方の指導もあり利用者が快適に過ごせるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳や野菜ジュース等を飲んだり、野菜の多い食事を心がける等して、便秘予防の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴をしている方や自分で曜日を決めて入浴する方は希望に沿った対応をしている。又、あまり入浴を好まない方々は、最低週に2回は入れるように体調を見ながら上手く誘うように支援している。	利用者の希望や体調を考慮し入浴を支援しています。入浴の日程を決めている方、毎日入浴する方など時間を気にすることなく入浴できるようにしています。拒否の方には声掛けを工夫し入浴出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を多くして夜間安眠できるように関わり、夜間は個別の習慣や照明、温湿度を調整して支援している。又、体調の良い時には、日中にお昼寝をしてもらうなどして、体調を整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬保管ロッカーや緊急ファイルには薬名、服用薬の目的や用法・用量を張り出し・更にファイルして、常に確認できるようになっている。又服薬にかかわった職員名を服薬管理チェック表に記して、間違いの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出がままならないので、施設内で飾り物づくりや体操などで楽しんでいる。又、ベランダ菜園の生育を毎日楽しみにして見に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外出のできないコロナ禍の中、個別に希望のある方はドライブに行ったりしている。	天気の良い日は近所のお地藏さん参りに行く方や2階のベランダにプランターを置き外に中々出る事が出来ない方が花や野菜を育て収穫をしたりと気分転換になっています。藤の花やチューリップなど観賞ドライブに出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使ったり、所持している方は今は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙のやり取りが出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや花を飾るなどして居心地よく工夫している。	共用空間は季節や行事の飾り付けを利用者と職員と一緒に作成しています。風船バレーや盆踊りを踊ったり、ティータイムを楽しんだり穏やかな様子で和やかな雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室が好きな方、居間リビングでゆったりできる方、入居者同士の相性など考慮して、それぞれの居心地の良い居場所づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具など、使い慣れたものを持ち込んで居心地の良い場所づくりをしている。	居室には家具や調度品などが持ち込まれています。読書をしたり掃除をしたりと今までの生活習慣が継続出来るよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方には居室前に名前を付けたり、トイレの場所がわかるようにしたりと工夫している。		